

31 国 語

松 蔭 高 等 学 校

平成三十一年度松蔭高等学校入学試験問題

国 語

○ 注 意

- 1 問題は①から⑤までで17ページにわたって印刷してあります。
- 2 指示があるまで中を見てはいけません。
- 3 検査時間は五〇分です。
- 4 解答はすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから新しい解答を書きなさい。
- 6 検査番号(算用数字)、氏名を、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高校一年生のおれ(篠崎)と大和田と庄司は、なりゆきで園芸部に入部した。庄司は中学のときのいじめが理由で頭に段ボール箱をかぶり、教室ではなく相談室に登校している。夏休みに庄司の提案で園芸部の合宿をすることになった。

日が沈むと、庄司が持ってきた懐中電灯を囲んで座った。あたりは静かで、虫の声とたまに川の向こうの道路を通る車の音がきこえるだけだ。

少しは園芸部らしいことをしようということになり、知っている植物の名前をそれぞれいってみる。おれは二十一、大和田は十七、庄司は三十八だった。

「今、何時？」

大和田がきいた、おれは時計を見る。

「七時半」

「まだそんな時間か」

大和田が①にいった。

「キャンプファイヤーやろうぜ」

「燃やすものがないよ」

「おれ、雑誌がある」

自分のリュックから、バスで読んでいた雑誌を大和田が取り出す。一枚ずつちぎってまるめる。それと、さつき食べるのに使った箸や菓子箱、他にも燃やせる紙の部分もませた。懐中電灯で照らし、テントのそば

にある枯れ草や枝も集めた。それでもたいした量にはならないが、ちいさな山にして庄司のライターで火をつける。

明るくなると、ほっとした。足元にころがっている小石の形までよく見える。三人で黙って火を見ていたが、すぐに炎は小さくなる。雑誌を一枚ずつちぎって火に入れていったが、すぐになくなった。

「今度はほくが探してきます」

庄司が立ち上がり、懐中電灯を持って探しにいった。しばらくして枝やら草をひとかかえ持ち、もどってきた。小さくなった炎に顔を近づける。乾いた草を入れると、ぱちぱちと音がした。

突然、その場で庄司が踊りだした。いや、飛び跳ねている。見ると箱に火がついている。あごの近く。みるみる、炎が箱を伝って上に広がっていく。

「庄司、火だ！」

「B B、早く箱を脱げ！」

おれたちは立ち上がった。庄司は川のほうへ走りながら箱を脱ぐ。箱が地面にころがる。おれと大和田も追いかけた。庄司は靴のまま川に入ると、手ですくった水を何度も顔にかけた。

「大丈夫か。やけどしてないか」

暗くはつきりと見えないが、箱をかぶっていない庄司が、うつむいて立っている。

「大丈夫。やけどはしなかったです」

小声で答えた。大和田が自分の頭のタオルをとり、さしだす。

「これで拭け。臭いけど。顔も隠していいぞ」

「いや、いいです。ちょうどいいんです」

庄司は顔を手のひらでぬぐうと、おれたちの前を通り、残り火の燃えているキャンプファイヤーの前にも

どつていった。おれと大和田も ^aキンチョウしてもどつた。

オレンジ色の炎が、庄司の顔を照らしている。眉が太く、目が二重ですごく大きい。鼻も高く、くつきりとした顔だ。全然コンプレックスを持つような顔じゃない。好みは分かれるにしても、かっこいいといわれる顔だ。

「^②なんだよ。おまえ、いい顔してるじゃん」

大和田も拍子抜けしたらしい。でも庄司は 2 な顔だ。

「以前、篠崎くんには話をしましたが、この顔のことで中学のとき、いろいろやられたんです。そのときが一番いやだったのが、出木杉だということなんです」

「できすぎて、それ ^bジマンか」

「ちがいます！」

庄司が怒鳴った。

「出木杉くんって、ドラえもんに出てくる顔が濃いやつがいるじゃないですか。あれです、あれに似てると、ずっとからかわれていたんです」

本当だ。そういわれたらそっくりだ。眉毛が濃く、3 な二重でぱっちりとした目、筋の通った鼻。うまいネーミングに思わず唖りそうになる。

「これも篠崎くんには前にいいましたけど、大和田くんに似たクラスメイトが何人かいたんです。いわゆる不良です。いえ、^③今はもちろん大和田くんとはちがうことは知っていますが。そいつらがぼくの顔のことをいろいろいったんです。殴られたこともありました。それでぼくは学校に行けなくなりました。それから外に出るときは箱をかぶるようになったんです。それに、ぼくの下の名前、知ってますよね。二人がどう思っているか、わかりませんが、いまだき善男^{よしお}っていうんです」

庄司はさらに 4 な顔になる。

「庄司善男……。これは親を恨みます。そのうえこんな マンガみtainな顔、自分でも嫌になります。ドラえもんの出木杉くんは、勉強もスポーツもできて性格も明るくていいやつだけど、ほくはちがいます。似ているのは、顔のつくりと勉強が得意なことだけです。スポーツは得意じゃないし、性格も暗い」

「顔も名前もたいしたことじゃねえじゃん、おれにはBBの悩みがさっぱりわからんな。なにが問題なんだ。なんで箱かぶんなきゃいけないんだよ」

大和田が 5 にいうと、庄司が頭を強く振った。

「顔と名前をからかわれるんですよ！ この気持ち、大和田くんにはわからないんです！」

「でも今、おまえのことをからかうやつはいないだろ！」

大和田も怒鳴り返した。

「いいか、よく聞け。おまえは変人だ。おまえは頭がいい。おまえはイガイに行動力がある。そしてちよつと暗い。でも、おれはおまえのことが嫌いじゃない。顔も名前も関係ねえよ」

庄司は黙った。炎が小さくなり、あつというまに灰の上でわずかに燃えているだけになる。おれは庄司の箱を見た。箱は地面に叩きつけられた衝撃のせい、火が途中で消えている。立ち上がり、箱を拾い上げた。キャンプファイヤーの火の中に放り入れる。箱に火が燃えうつり、また明るい炎がたちはじめた。

「もう箱はいらないよね。大和田がいったように今、庄司をからかうやつはいないんだから」

庄司が小さく頷いた。

④ ……植物を大きな鉢に植え替えると、急に大きくなりますよね。あれを見ていつも思っていたんです。それまでは鉢に合わせて小さく生きていたんだなって」

「箱、脱げてよかったじゃん」

大和田が明るい声でいった。

「よかったです」

「できたら、その丁寧語もやめろ」

「いえ、これはやめられません」

「そうか、おまえはe ガンコだという一文もつけくわえてやる」

「結構です」

思わずおれが吹きだすと、大和田と庄司も笑いだした。

〔園芸少年〕魚住直子

*BB…ボックスボーイ。大和田が庄司につけた呼び名。

問1 〓 線 a ー e のカタカナを正しい漢字で書きなさい。

問2 1 ー 5 に入る語句を次の中から選び、記号で答えなさい。同じ記号を二度以上用いてよい。

- ア 深刻そう イ 退屈そう ウ 呆れたよう エ 絵に描いたよう

問3 〓 線①で庄司が「ちょうどいい」と言ったのはどうしてか。分かりやすく説明しなさい。

問4 〓 線②から分かる大和田の気持ちを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 庄司が箱をかぶっているのは顔にコンプレックスがあるからだろうと思っていたが、整った顔立ちを見て予想外のことにとまどっている。
イ 庄司が人に顔を見せないのは顔に自信がないからだろうと気の毒に思っていたが、整った顔をしていることがわかって腹立たしく思っている。
ウ 庄司が顔にコンプレックスを持っていると勝手に思い込んでいたが、顔ではなく名前にコンプレックスを持っていたと知って呆れている。

- エ 庄司がいじめられたのは顔のせいだとばかり思っていたが、そうではないことが分かって庄司の気持ちを理解できずにいらだっている。
オ 庄司が箱をかぶっている理由は顔ではないことを自分だけが知らなかったことが分かって、信頼されていないことを情けなく思っている。

問5 〓 線③の庄司の言葉から、どのようなことが分かるか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大和田が自分をいじめた不良だとずっと誤解していたが、今は別人だと分かって申し訳なく思っていること
イ 最初は外見から大和田を不良だと思っていたが、つきあううちに大和田の優しい人柄が分かったこと
ウ 昔は不良だった大和田にいじめられて恨んでいたが、更生して真面目になった大和田を今は許していること
エ 昔自分をいじめた不良たちは、今はもう大和田とはちがって自分のことをいじめなくなったこと

問6 〓 線④の植物の話で、庄司が言いたかったことはどのようなことか。本文の内容をふまえて50字以上、70字以内で書きなさい。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

インターネットにつながっているパソコンのキーボードを叩けば、数秒前には知らなかった情報に^aカンタンにアクセスできる現代。これからはますます「情報をいかに早く、いかに大量に集めるか」ではなく、「得た情報をいかに活用するか」「得た情報を活用して、どのように自分やほかの人たちを幸せにすることができるか」を考え、実現できる能力が必要とされることでしょう。

これはいくらコンピュータが進化しても獲得できない、人間だけが持つ能力です。自分にとって本当に必要な情報を見極め、厳選し、よけいな情報にはできる限り触れない、摂取しないようにする。

情報という食べ物とは、そんな付き合い方をしていきたいものですよ。

私たちが生きていられるのは、日々食べ物や水、空気を取り込み、必要な栄養分や酸素を吸収し、不要なものを排泄しているからです。そして、そのときどきの自分にふさわしく、質の良い食べ物や水を摂取し、きれいな空気を呼吸すれば健康であり続けることができます。反対に、ジャンクフードや清涼飲料水ばかりを摂り、よどんだ空気の中に身を置けば、どんな人も健康を害してしまいます。

最近では、自分が食べるものや水については、注意を払う人が増えてきました。栄養バランスのとれた食事やきれいな水を摂ることによって、肉体的な健康を維持・向上させることは、大変素晴らしいことだと思います。

しかし食事や水には神経質なまでに気をつかう一方で、いらぬモノで溢れかえった家やオフィス(空間)で、よどんだ空気を吸っていることに気がつかない。ですから、私はこれまで断捨離を説く際、「よどんだ空気を一掃するためにも、今の自分に必要あるモノだけを厳選しましょう」「快適な空間で呼吸をしましょう」

ということを繰り返してきました。

ただし、ひとことだけ言わせていただければ、^①断捨離には終わりというものはありません。たとえば、食べ物や飲み物は、一度質の高いものを摂ったらそれでおしまい、というわけでもありません。居住空間だって、一度断捨離をして整えたら「あとは一生^b安泰だ」などということはありません。食べ物や飲み物の厳選は、生きている限りずっと続きますし、居住空間にだって、次々と新しいモノが入ってきます。

断捨離では「モノを捨てなさい。そして新しいモノを増やしてはいけません」ということは言っています。今の自分にとって「要・適・快」と感じるモノを厳選し続けてゆきましょうという考え方です。

もし自分の身のまわりに置くモノを厳選するのであれば、同じように、自分の脳に入ってくる情報も厳選する必要があります。

精神的な健康を左右するのが情報です。体に良い食事と水を摂り、断捨離により整えられた居住空間で呼吸をしていたとしても、自分の脳に入ってくる情報がジャンクフードやガラクタのようなものばかりだったら、心身の健康状態はどうなるでしょうか。

情報そのものは、モノとは違ってカタチがありません。モノの場合は、誰かに指摘されれば「確かにわが家は不要・不適・不快なモノで溢れかえっている」と目で見て確認できます。しかし情報の場合は、^②脳内が必要・不適・不快な情報で溢れかえっていたとしても、目に見えませんが、なかなかそれを認識できません。家にモノを置ける量よりも、脳にインプットできる情報の量の方がずっと多いというのに。

あなたにとって不要・不適・不快な情報が積もり積もると、家にうず高く積まれた不要・不適・不快なモノたちと同様、いやそれ以上にあなたの精神に「詰まり」を生み出してしまおうでしょう。

私たちは、情報を食べ物や空気と同じように食べたり、吸ったりして生きています。食べ物と同じように、今のあなたにとって適切な情報を摂取し、それをよく咀嚼し、消化し、自己化し、そして不要なものは体外

に排泄します。このサイクル・新陳代謝が行われなければ不調をきたしてしまいます。

特に現代は、「飽食の時代」であると同時に「情報の飽和の時代」ですから、気をつけていないと、健全な新陳代謝が損なわれてしまうでしょう。

「必要かもしれない」「面白そうだから」と情報をやみくもに集め、自分の頭で咀嚼することもなく、自己化もせず、発信もせず、「いつか使うかもしれないから」「情報は、別に場所を取るわけじゃないから」と必要な情報を取っておく……。

(中略)

先ほども言ったように、私たちは自分たちの脳の情報処理能力をはるかに上回る「情報の洪水」の只中で生きています。一人の人間が、現代社会に^d リユウツウしている情報のすべてを把握することはもはや不可能ですし、その必要はありません。

それよりも自分の限りある^③ 情報処理能力をいかに有効に使うかが必要で大切なことです。

(「捨てる」やましたひでこ)

*断捨離…モノを捨てることによって執着から解放されるという哲学

*咀嚼…食物を細くなるまで噛むこと。また、物事や文章の意味を考えつつ味わうこと

問1 〓線 a ~ d の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 〓線①「断捨離には終わりというものがありません」とあるが、作者は「断捨離」とはどういうことだと言っているのか、文中の語を用いて三十五字以内で答えなさい。

問3 〓線②「脳内が不要・不適・不快な情報で溢れかえって」しまう原因となるのはどのような考えか。四つ書きなさい。

問4 〓線③「情報処理能力」とあるが、作者のいう情報処理能力とは、どんな能力か。文中の語を用いて100字程度で説明しなさい。

3

次のA・Bの詩を読んで、後の問いに答えなさい。

A 木

葉っぱをおとした。

冬の木はいい。

裸の木々のすがたはいい。

ごつごつした古い木などは特がいい。

強くて落ち着いていて、実にいい。

霜柱にかこまれて。

寒さのなかにたっている。

裸の木々の美しさ。

枝々や幹のなかを。

力が流れているような気がする。

夢がいつぱいつまってるような気がする。

① 白い炎が燃えているような気がする。

B 樹木

② 若葉は光ともつれあい。

くすぐりあい。

陽がかげると不思議がつてきき耳をたて。

そよ風がふけば。

③ 枝々はがまんがきかずざわめきたち。

毛根たちはポンプになり。

かけ足であがり。

枝々にわかれ。

葉っぱは恥も外聞もなく裸になり。

くまどりの顔で。

歓声をあげ。

(A、Bともに草野心平)

問1 — 線①の「白い炎」という表現から、どういふことが感じられるか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 生きる力を奪われた悲しさ
- イ 極寒にひとり立ち尽くす寂しさ
- ウ 春の訪れを待っている楽しさ
- エ 内に深く秘めた静かな力強さ

問2 — 線②「若葉は光ともつれあい」とあるが、どんな様子を描いたものか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア たくさんの若葉がうつそうと茂っている様子
- イ 一枚一枚の若葉がわずかな光を求めている様子
- ウ たくさんの若葉がきらきらと輝いている様子
- エ 一枚一枚の若葉が強烈な光を避けている様子

問3 次の文章は、A・Bの詩について説明したものである。 [1] [4] に入る語をそれぞれ後のア～ウから選び、記号で答えなさい。

この二つの詩は、ともに木を題材にし、その [1] に対する共感をテーマにしている。季節はAの詩が冬、Bの詩が [2] ということから、Aの詩に比べて、Bの詩のほうが [3] に描かれている。それは行の終わりに連用形を繰り返していることや [4] の多用からも感じられる。

- | | | | |
|---|---------|-------|-------|
| 1 | (ア) 忍耐力 | イ 行動力 | ウ 生命力 |
| 2 | (ア) 早春 | イ 初夏 | ウ 初秋 |
| 3 | (ア) 躍動的 | イ 流動的 | ウ 幻想的 |
| 4 | (ア) 反復法 | イ 擬人法 | ウ 倒置法 |

4 次の1～8の人物に合う説明を、後のア～クの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1 井原西鶴 | 2 滝沢馬琴 | 3 与謝野晶子 | 4 小林多喜二 |
| 5 正岡子規 | 6 樋口一葉 | 7 松尾芭蕉 | 8 島崎藤村 |

ア 俳句「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」で有名な歌人であり、雑誌『ホトトギス』の選者でもある
イ 俳諧(連句)の芸術性が高く、紀行文である『おくのほそ道』が有名な俳諧師
ウ 江戸時代の読本作者であり、葛飾北斎と深い交友関係にあった。代表作には『南総里見八犬伝』などがある

エ 自然主義作家として『破戒』『春』などの作品を残す。また、ロマン主義詩人としても知られる
オ 日本のプロレタリア文学を代表する作家であり、代表作には『蟹工船』などがある
カ ロマン文学の中心となった女流歌人。雑誌『明星』で「君死にたまふことなかれ」を発表した
キ 江戸時代の浮世草子の作者であり、代表作には『日本永代蔵』などがある
ク 生活に苦しみながらも『たけくらべ』などの代表作を短期間で発表した女流作家

5 次の各文の——線部の語が、形容動詞なら○を、形容動詞でないなら×を書きなさい。

- 1 人間にとって大切なものの一つは自由だ。
- 2 明日から待ちに待った夏休みだ。
- 3 試合は残念な結果に終わった。
- 4 私のそばで、はなしを聞いてみてください。
- 5 体育館の隅にいる彼女を見つけた。
- 6 結婚式はとてもなごやかだった。
- 7 彼の言うことは科学的だ。
- 8 風が出てきておかしな空模様になった。

平成三十一年度松蔭高等学校入学試験
国語解答用紙
 ○

検査番号

氏名

得点

①							
問6				問4	問3	問2	問1
						1	a
						2	
						3	b
						4	
						5	c
						6	
						7	d
						8	e

②										
問4					問3	問2	問1			
										a
										b
										c
										d

③	
問1	
問2	
問3	
1	
2	
3	
4	

④	
5	1
6	2
7	3
8	4

⑤	
5	1
6	2
7	3
8	4

100

50